

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。  
 そなえる…用意する、そろえる、用心する  
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。  
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛  
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。  
 そなわる…準備ができる、身に付く  
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシク



## かわさき 防災広報紙

昭和62年4月30日発行  
 発行●川崎市  
 編集●土木局防災対策室  
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地  
 TEL.(044)200-2111内線2841



# 自主 防災 組織

新緑の季節、一年のうちでもっとも快適な季節になりました。

皆さんお元気でお過ごしのことと思います。私たちは隣近所の人たちとお互いに協力して、毎日暮らしています。町内会・自治会の運動会やお祭り、子供たちが通っている学校でのPTAの集まり、そして近所で買物をするときでも、隣の人たちとおつきあいしているといつてよいでしょう。ふだんの生活の中でも、隣近所が助け合って私たちは毎日を送っています。

もし、大地震がおこって、隣から火が出たり、けが人が出たとき、私たちは、自分たちの町を守るために、協力してこの災害に立ちむかわなければなりません。皆が困っている非常時こそ、隣近所の助け合いは一層必要です。

このように、災害時に町ぐるみで一致協力して助け合おうとするのが、町の「自主防災組織」です。

5						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
.	.	.	.	.	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 <sub>31</sub>	25	26	27	28	29	30

**毎月15日は川崎市民地震防災デー**  
 火の元の点検やわが家の安全をたしかめましょう

# 私たちの町の自主防災組織

## 自主防災組織をつくりましょう

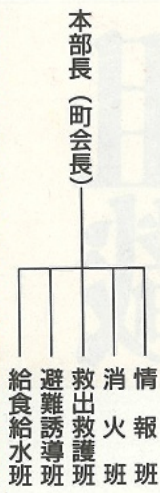
町内会・自治会の防火・防犯部や消防部等の組織を整備して、地震や台風にも対処できる、自主防災組織をつくりましょう。

## 自主防災組織の活動

災害時に私たちの町はどのようなになり、私たちはどうするか考えてみましょう。

- ① いち早く町内の被害状況、その他必要な情報を収集し、自主防災組織の責任者へ連絡します。責任者は、情報に基づき適切な判断を行い、住民に対して消火班の集結や避難命令の伝達等の指示を行います。(情報班)
- ② 地震が発生した場合、まず各家庭で火を出さないようにしますが、万一出火したら自主防災組織の消火班が中心となって初期消火を行います。(消火班)
- ③ 火災が拡大して避難を要するとき、町内の住民に速やかに伝達し、全員が避難誘導の責任者の指示に従って、まとまって避難します。(避難誘導班)
- ④ 建物の倒壊や落下物により負傷者が出たら、救出にあたる人の安全を図りながら、救出活動を行い、必要に応じて応急手当を行います。
- ⑤ 停電・断水・ガスの供給停止や、食料・飲料水・生活用水の不足が予想されますので、食料品・ろ水器・釜・なべ・燃料等を備蓄し、必要な場合、食料品や配布物資の配給をします。

## 自主防災組織の編成の例



## 防災訓練・啓発活動の実施

自主防災組織は、災害時に活動するための組織ですが、災害時に混乱なく行動するためには、あらかじめ準備しておくことが必要です。自主防災組織で主催する訓練や啓発活動の時には、町内の皆さんが多数ご参加下さるようお願いいたします。

## 自主防災組織への助成制度

川崎市では、自主防災組織の活動に対して、次のような助成制度を実施していますのでご利用下さい。

- ① 防災資器材購入補助金  
自主防災組織が防災対策を実施するうえで必要な物資を購入する場合、購入経費の1/2の額を補助します。
  - ② 活動助成金  
防災訓練や防災集会・映画会などを行ったとき、活動助成金を交付します。
- ※詳しくは、土木局防災対策室、区役所総務課へお問い合わせ下さい。



応急救護訓練(高津区)



初期消火訓練(中原区)

## 地震の心得——レッスン⑥ お互いに協力を

広い地域にわたって大きな被害が発生したとき、市や防災関係機関は、市民の皆さんの安全を確保するため全力を尽くしますが、多くの負傷者が出ると救急の手が回らないこともあります。協力しあって、応急救護をしましょう。

## 民生委員の手記

5月26日正午すぎゴーンという大きな音と共に、一瞬何が何んだか判断できない程の激しい揺れ、「地震だ」と呼んでみたものの身動きもできず、ガラガラと物の落ちる音に不安と恐怖を感じながら揺れのおさまるのを待つ外に飛び出した。間もなく「津波だ逃げる」と叫ぶ声、川と海に近い私達には津波警報が早く流れ、主人が地べたに座り込み悲鳴をあげている老人達を引き連れて公園に避難しました。ふっと83歳の一人暮らしの老女を思い出して「ばあさんどうしている」と無我夢中でかけ込んだら、部屋の真中に悠然と座って「大丈夫だえ、これ以上大きいのはあとこないべ」と元気な声、それと揺れると狼狽している私が勇気づけられる始末、向いの家に入って「ばあさん頼む」と叫んだら「大丈夫だ心配するな」と力強い声が返ってきたのでほっとしました。津波で家財道具が水につかって使用できないので相談に来てくれた、母子家庭の人が居りましたので母子福祉の助けあい資金を借受ける事にしました。さてその後が大変でガス、上水道がストップ、文化生活に慣れた身体に給水車を待ち水運びのつらい毎日が続きます。福祉事務所より老人家庭の被害状況や不自由な点など調査するよう連絡入ったので早速、町内を廻りました。古い家の多い

町なのにそれ程の被害もなく、驚いた事には老人世帯のほとんどが地下水を使用している事でした。困っている時はお互い様と近隣の人達に水をあげているのを見て本当に嬉しく思いました。日常のつながりが、いかに大切であるか、地域住民の優しさと思いが非難の場合役立つ事を知り、たび重なる余震の恐怖の中でホットな気持ちになりました。青年会の人達も老人世帯を見舞って下さり、戸障子の開閉の悪いのは修理をしてくれました。老人一人暮らし、身障者家庭の場合は家庭奉仕員と近隣の人が協力して水を運びました。行き届いた行政の心と地域住民の暖かな助けあいの心に支えられながらの毎日でした。

地震と津波の恐ろしさを体験した私達、住宅被災と多くの犠牲者を出した能代町の悲惨な光景、あの日の事は忘れ去ることはできません、今も鮮烈にのみがえってきます。この経験を大切に地域の連帯感を深める事も防災の一助になるように思いましたので心がけたいと念じながら頑張っています。

※日本海中部地震 昭和58年5月26日、午後0時0分18秒発生 震源：能代沖100km、深さ10km マグニチュード：7.7 死者：104(100人)、負傷者：163(74人) (一)は津波によるもの



川崎市南部防災センター

南部防災センターでは、本年4月から夜間体制をさらに充実し、市民の皆さんの安全を守っています。防災行政無線の開局にともない、夜間において万一災害が発生した場合、当センターが市職員の参集や災害情報の伝達等を行います。これまでの電話連絡とは違って、迅速で正確な情報伝達により、本市の応急対策活動がよりスムーズになります。



●ご利用、ご見学のお問い合わせは  
川崎市南部防災センター  
川崎市川崎区小田7-3-1  
TEL.355-2175  
交通=JR川崎駅中央口14・21出入口1番のりば 臨港バス富士電機行き小田小学校前下車徒歩6分

体験談 その 33

日本海中部地震「能代市の災害記録」から(能代市提供)

西地区民生委員 川反町 佐賀井栄子さん